



# 株式会社ウェッジホールディングス 2012年 5月 会社説明会

2012年 5月24日

 **Wedge**Holdings

 [www.wedge-hd.com](http://www.wedge-hd.com)



# Contents

- 当社の概要
  - 会社概要
  - グループの構成
  - 主要な市場と事業構成
  - 沿革
  - 改革による事業構造変化と成長
  - 連結業績の推移(直近5期)
- 2012年9月期 第2四半期決算内容と事業トピックス
  - 連結経営成績(P/L)
  - セグメント別業績
  - トピックス:コンテンツ事業
  - トピックス:ファイナンス事業
  - ファイナンス事業:急速な業績拡大へ
  - 連結財務状況(B/S)
  - 2012年度連結通期業績予想と進捗
- 今後の事業方針
  - 今後の事業方針
  - ファイナンス事業の役割
  - ARFC Vision
  - ASEAN市場の拡大と需要の高まり
  - ターゲット市場と目標
  - 日本市場での事業方針



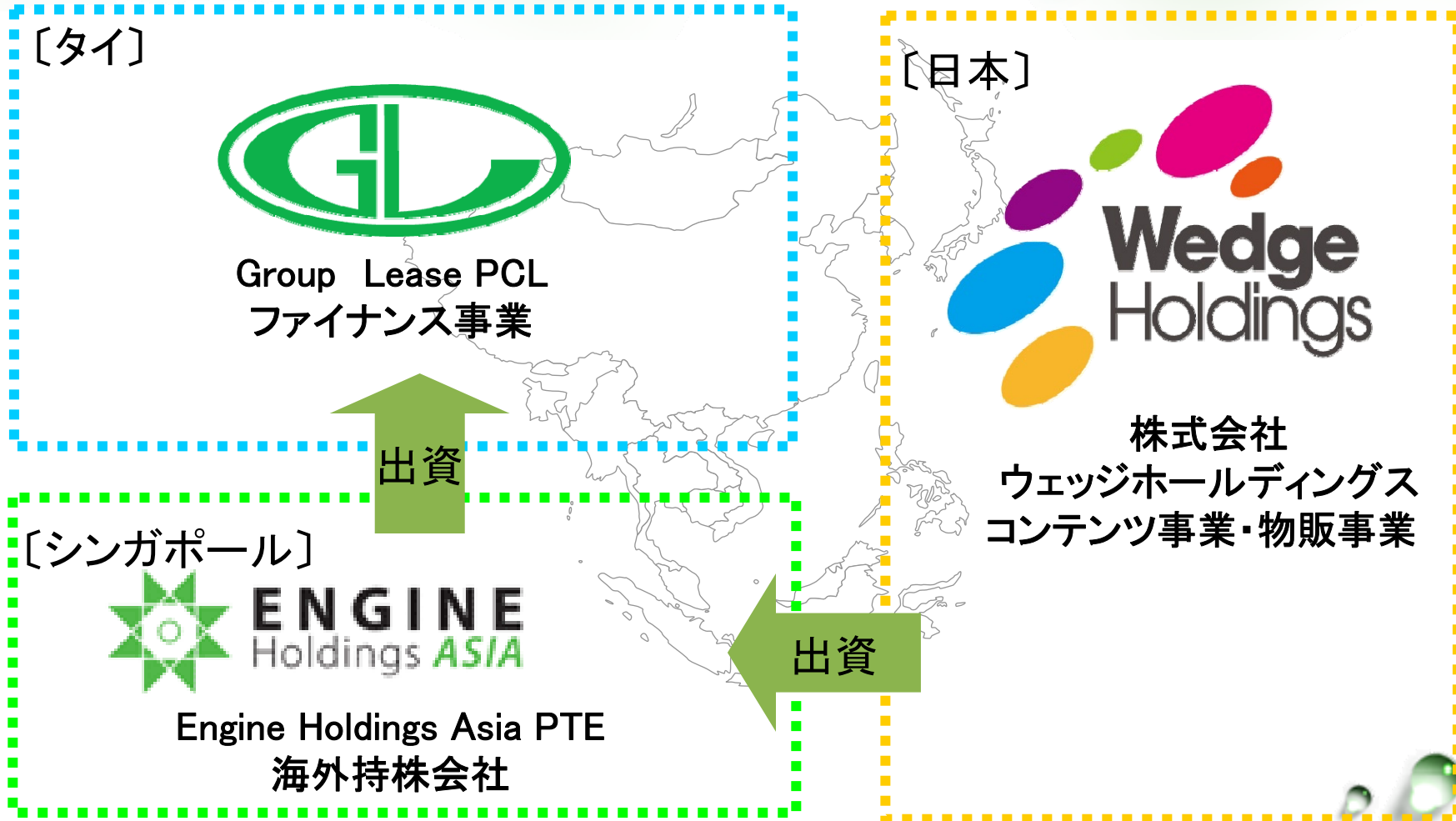
# 当社の概要

# 会社概要

## ❖ 会社名: 株式会社ウェッジホールディングス (英語表記: Wedge Holdings CO., LTD.)

- 設立: 2001年10月
- 資本金: 1,939,143,700円
- 上場市場: JASDAQ グロース
- 代表者: 代表取締役会長 此下竜矢  
代表取締役社長 田代宗雄
- 本部事業所: 東京都中央区日本橋本町1-9-4  
Daiwa日本橋本町ビル
- 従業員数 291人(うち海外223名)  
※グループ全体・2012年3月末時点
- 主要なグループ会社
  - 海外子会社 Group Lease PCL(タイ 証券取引所一部上場)  
Engine Holdings Asia PTE(シンガポール)
  - 持分法適用関連会社  
P.P. Coral Resort Co.,Ltd(タイ)  
Engine Property Management Asia Co.,Ltd.(タイ)

# グループの構成



# 主要な市場と事業構成

## 東南アジア

### ファイナンス事業

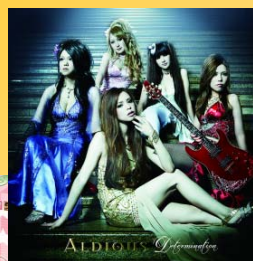
- ❖ オートバイファイナンス  
(タイ国内)



## 日本

### コンテンツ事業

- ❖ カードゲーム  
書籍制作・出版
- ❖ 音楽事業



### 物販事業

- ❖ 海外キャラクター  
商品の卸売・小売



前期までの「投資育成事業」は、海外を中心にしたグループの成長投資機能としてのM&A活動に移行していたことから事業セグメントとしては廃止

# 沿革

- 2001年10月 株式会社ブレインナビとして設立
  - » 編集プロダクション事業を中心に展開
- 2004年1月 大阪証券取引所ヘラクレス市場(現JASDAQ)に株式上場
  - » 翌年にかけて、物販事業、投資事業へとM&Aを含め事業領域を拡大

- 2005年7月 会社分割により株式会社ウェッジホールディングスとして持ち株会社に移行
  - » その後一部の子会社の吸収により事業持ち株会社化
  - » 2007年9月期まで3期連続の赤字が続く業績低迷期に

2001～2004

設立と  
上場期

2005～2007

業績  
低迷期

2008～2011

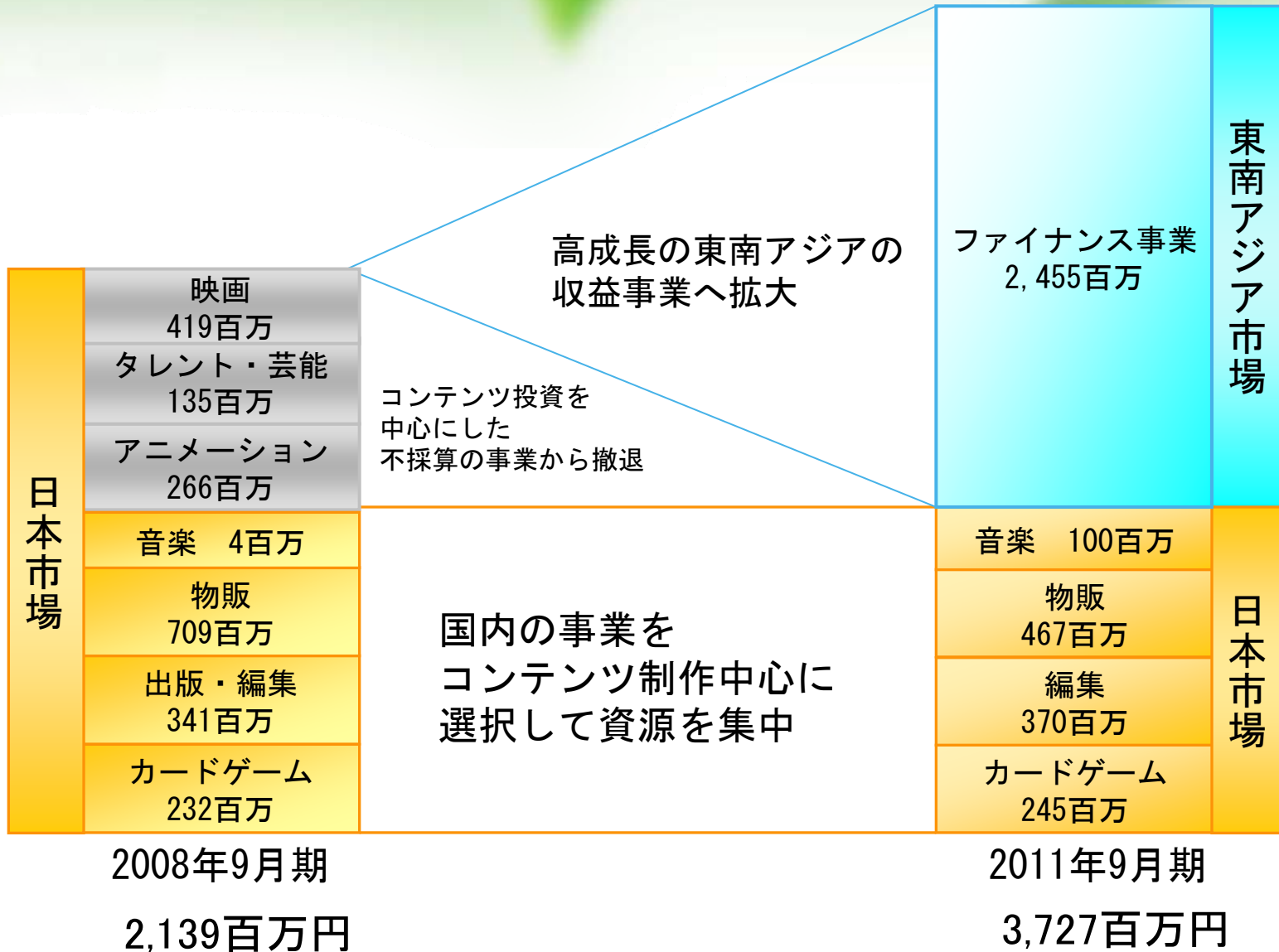
経営  
改革期

2012～

新たな  
成長へ

- 2007年12月 経営体制を変更、改革に着手
- 2008年11月 2008年9月期、黒字転換
- 2009年1月 シンガポールにEngine Holdings Asiaを設立、東南アジアへの投資基盤に
- 2009年7月 タイ株式市場一部上場ファイナンス会社 Group Lease PCLを連結子会社化、ファイナンス事業に拡大

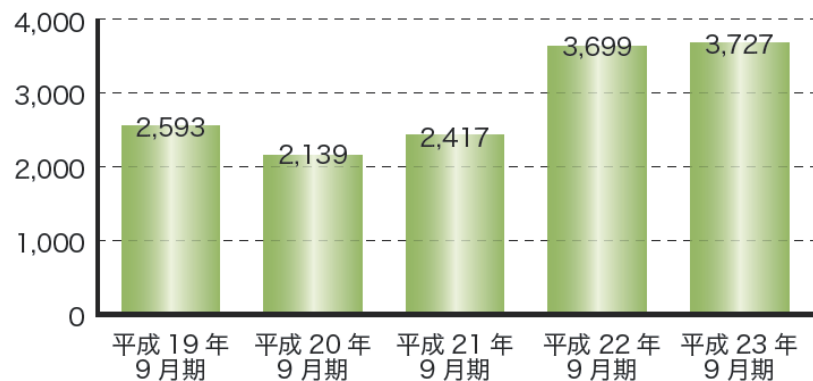
# 改革による事業構造変化と成長



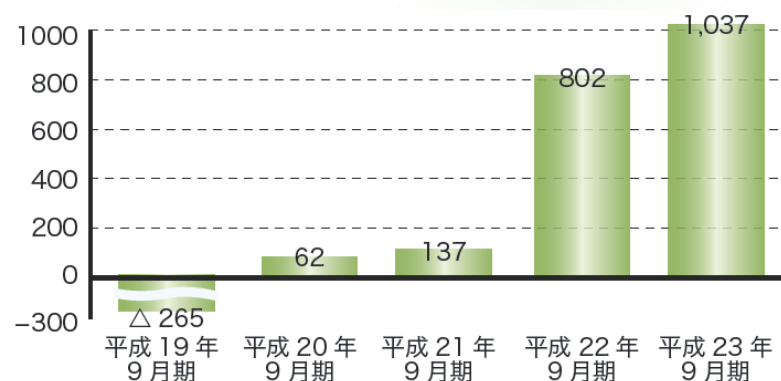


# 連結業績の推移(直近5期)

## 売上高推移

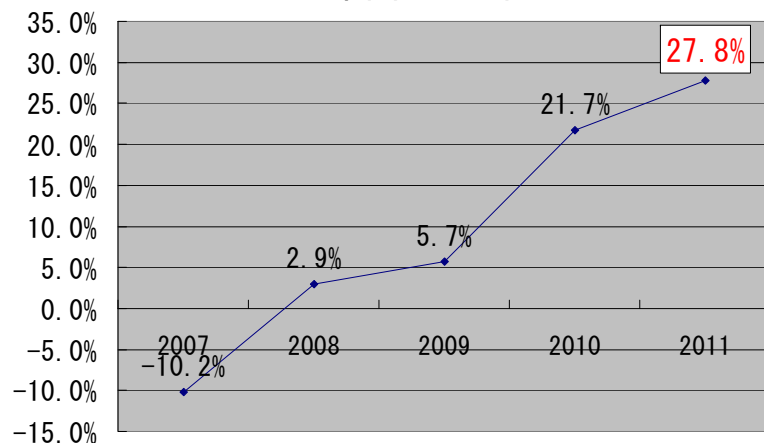


## 営業利益推移



(単位：百万円)

## 営業利益率



- ・2008年(平成20年)の営業黒字化以後、海外事業を中心に業績伸長。
- ・国内不採算事業の整理で国内事業も着実に利益改善、改革の成果が現れる段階に。

2012年9月期  
第2四半期 決算内容と  
事業トピックス

# 連結経営成績(P/L)

(単位：千円)

	2012年度 第2四半期実績	2011年度 第2四半期実績	対前年比	2012年度 第2四半期予想	達成率
売上高	1,586,878	1,936,014	82.0%	1,500,000	105.8%
営業利益	442,750	569,695	77.7%	420,000	105.4%
経常利益	490,239	522,929	93.7%	400,000	122.6%
当期純利益	128,462	116,930	109.9%	100,000	128.5%

## ❖ 期初の業績予想を上回る進捗で落着

- 昨年比では円高が海外売上・利益を減少させる
- タイでの洪水などの一過性要因が営業利益に減少影響
- コンテンツ事業の収益が拡大、純利益は増益に

# セグメント別業績

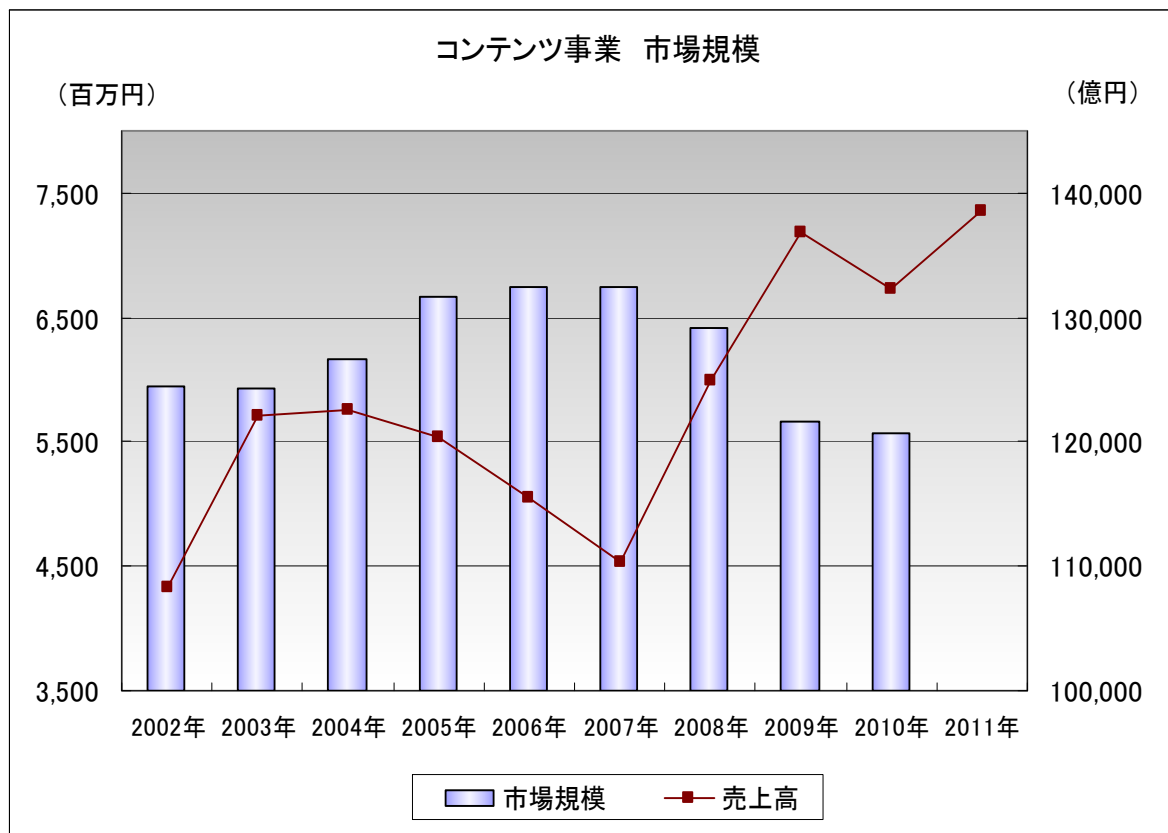
(単位：千円)

報告セグメント		2011年9月期Q2	2012年9月期Q2	前年同期比
ファイナンス事業	売上高	1,291,840	984,289	76.19%
	セグメント利益	542,947	413,259	76.11%
コンテンツ事業	売上高	347,648	391,450	112.60%
	セグメント利益	93,022	165,361	177.77%
物販事業	売上高	225,918	210,311	93.09%
	セグメント利益	▲ 5,985	▲ 14,990	250.46%
(合計)	売上高	1,936,014	1,586,878	81.97%
	セグメント利益	569,695	442,750	77.72%

# トピックス： コンテンツ事業

## ❖ 注力事業の成長で増収増益段階へ

- 2008年以降アニメ・芸能・映画などの不採算事業から撤退
- カードゲーム・編集・音楽など主力事業に資源を重点配置して育成
- 第2四半期はコンテンツ事業の全部門が増収に



コンテンツ市場(出版・音楽・ゲーム・動画等主要ジャンル合計)の市場動向と当社の継続事業の売上対比

# トピックス：ファイナンス事業

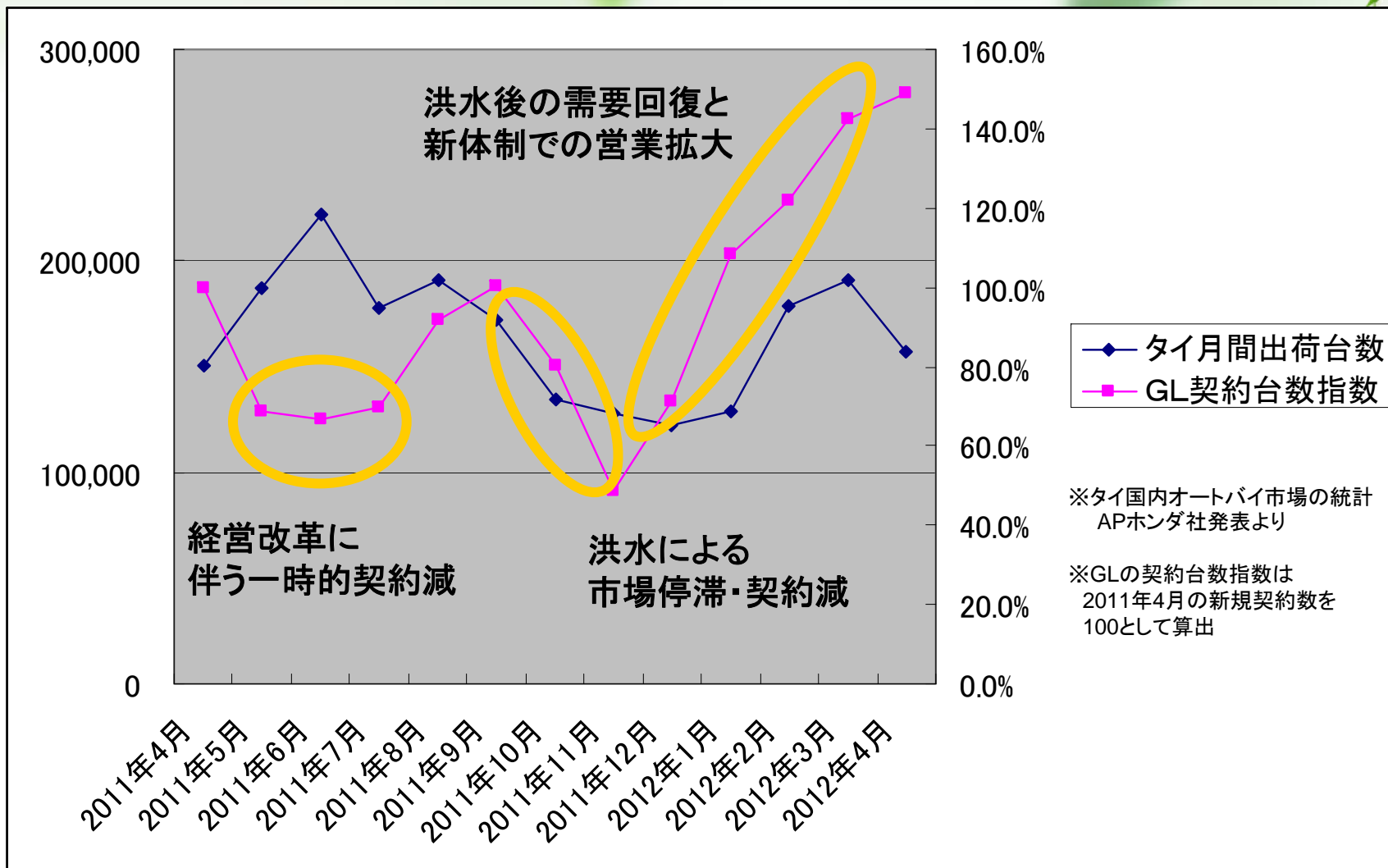
Group Lease PCLの四半期業績(タイバーツ建)

(単位：百万バーツ)

	2011年第2四半期	2012年第2四半期	前年同期比
売上高	478	389	81.4%
営業利益	205	166	81.0%
税引前四半期純利益	205	169	82.4%
四半期純利益	140	104	74.3%

- ❖ 前四半期からの一過性要因はこの第2四半期で最大に影響
  - 経営改革による体制変更時の新規契約減少と洪水発生での新規契約減少
  - 営業利益率はほぼ変わらず、高収益体質は持続
  - 為替影響を除いた本来の業績は相対的に堅調
- ❖ 営業活動は急速に拡大、業績への反映は今後

# ファイナンス事業：急速な業績拡大へ



新経営体制で成長追求、月間契約数は前年比約5割増にまで急伸

# 連結財務状況(B/S)

(単位：千円)

連結貸借対照表	2011年9月期	2012年Q2	対前期末比	増減要因
流動資産	6,463,048	6,165,184	95.4%	営業貸付金の回収増加による減少
固定資産	3,005,629	3,026,752	100.7%	
資産合計	9,468,677	9,191,937	97.1%	
流動負債	2,602,416	2,134,773	82.0%	1年内返済予定長期借入金の減少2.84億円(主にグループリース)
固定負債	929,327	330,082	35.5%	長期借入金の減少6億円(主にグループリース)
負債合計	3,531,743	2,464,855	69.8%	
株主資本合計	4,561,767	4,690,230	102.8%	
純資産合計	5,936,933	6,727,081	113.3%	四半期純利益の計上等により増加

流動比率	248.3%	288.8%
固定比率	65.9%	64.5%
自己資本比率	48.2%	51.0%
D/Eレシオ	65.2%	42.6%



# 2012年度連結通期業績予想と進捗

(単位：千円)

	2012年9月期 第2四半期実績	通期業績予想	比率
売上高	1,586,878	3,300,000	48.1%
営業利益	442,750	830,000	53.3%
経常利益	490,239	800,000	61.3%
当期純利益	128,462	230,000	55.9%

## ❖ 通期業績予想に対しても良好に進捗

- ファイナンス事業は洪水影響を終えて契約・売上拡大を加速
- 各利益指標でも進捗は良好

## ❖ 海外収益への為替影響は円安で収益増に

- 業績予想時の想定レート 1バーツ=2.48円、2Q末までの平均レートは2.53円の円安傾向
- 今後円安傾向続けば1バーツあたり0.1円毎に、通期売上では約90百万、営業利益で約30百万円の増加影響を見込む

順調に推移。現時点では従来予想に変更なし

# 今後の事業方針

# 今後の事業方針

## ❖ グループ事業方針

- 各事業での営業利益を重視しつつ、連結子会社、持分法関連会社など、様々な形態を通じて、グループ事業を展開し、純利益の増大を目指す

## 東南アジア

ARFC Vision による  
クロスボーダー戦略

- ・タイ国内の成長加速に加えて新たにASEAN各国市場に展開することで飛躍
- ・ASEAN各国の草の根経済インフラとして役割を担う存在に

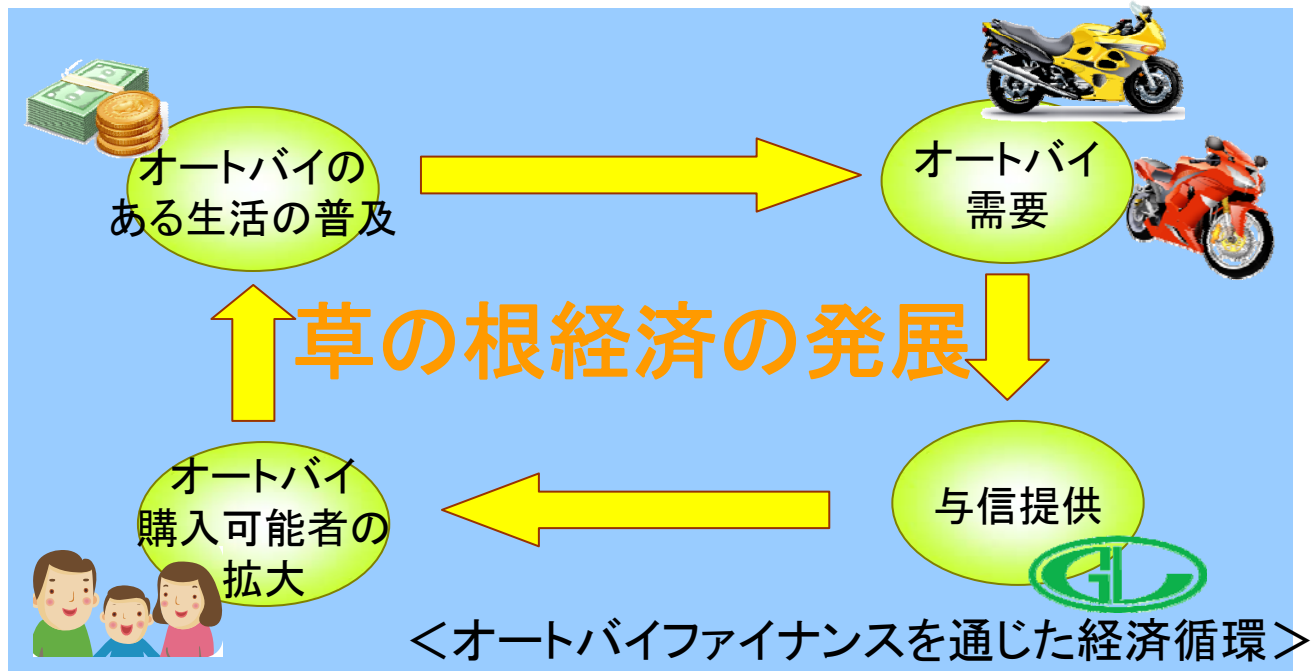
## 日本

「編集力」を  
主軸にした収益拡大

- ・コンテンツ事業の「編集力」をコアコンピタンスとして収益性を強化
- ・新コンテンツ獲得の強化と制作物のマルチ化で成長へ

# ファイナンス事業の役割

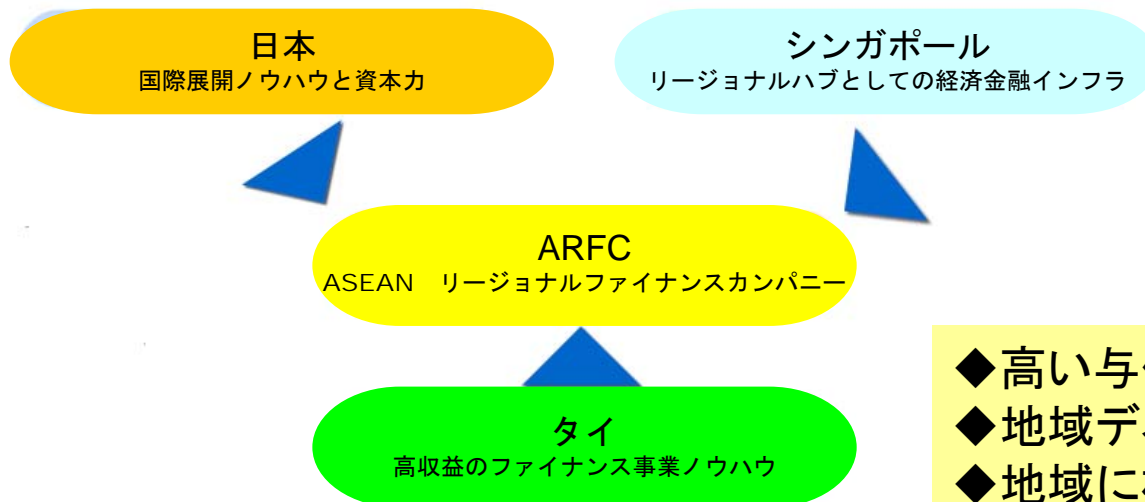
- ❖ マイクロファイナンスにより購入可能な消費者を創出
- ❖ 普及と更なる需要喚起の好循環
- ❖ 生産財へのファイナンスが経済成長を推進
- ❖ 生活水準の向上とともにファイナンス市場も拡大



ASEAN各国の草の根経済インフラへ

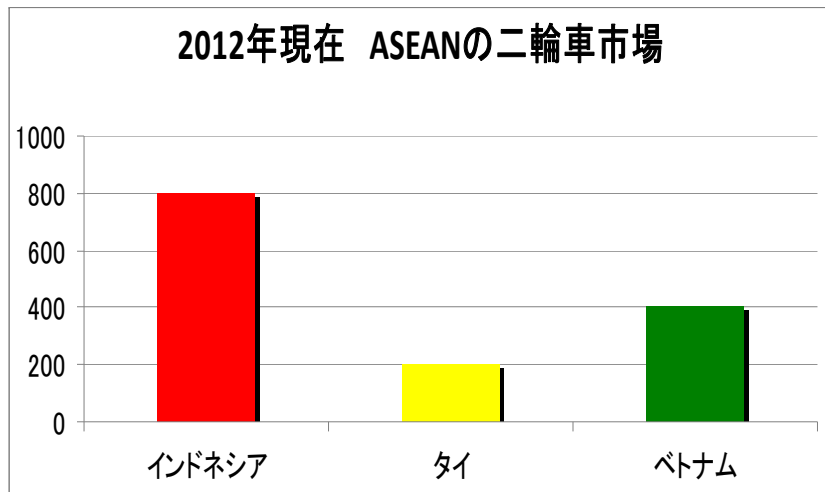
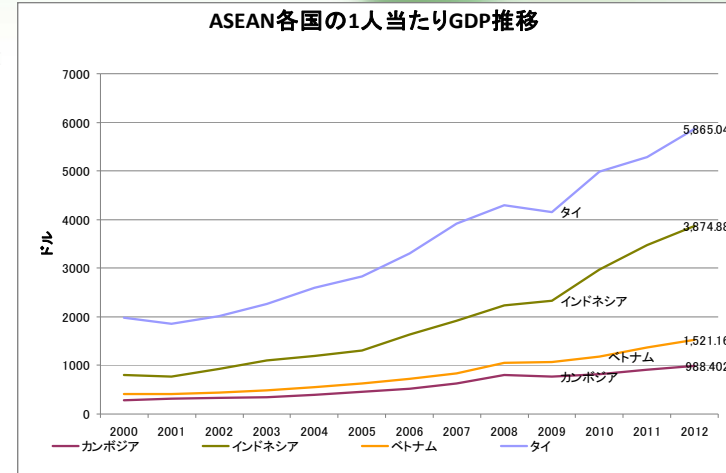
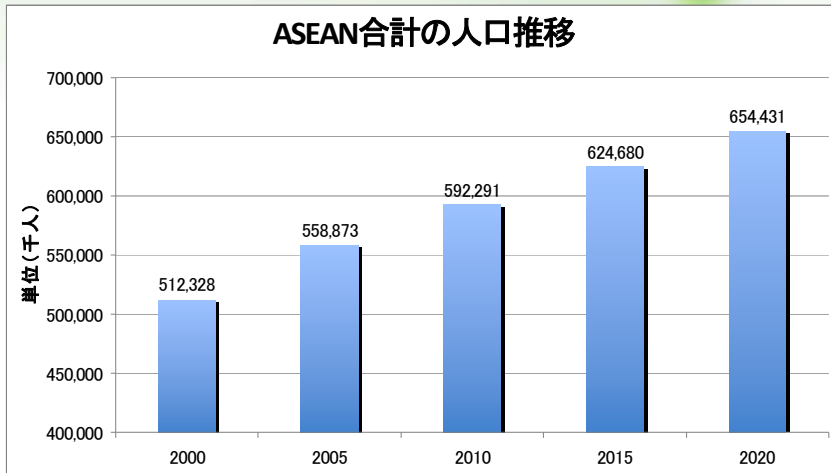
# ARFC Vision

- ❖ ASEAN Regional Finance Companyとしての展開
  - タイでの地域に密着したファイナンス事業のノウハウを、日本とシンガポールの資源で、ASEAN地域にグローバルに展開する「グローバル」ビジネスへ
- ❖ リージョナルハブとして、シンガポールにてASEAN事業の持株会社 GL Holdings社をGLの100%子会社に



- ◆高い与信管理・債権管理能力
- ◆地域ディーラーと協力する高効率な営業
- ◆地域に根ざした債権回収力
- ◆充実した資本による強固な財務基盤

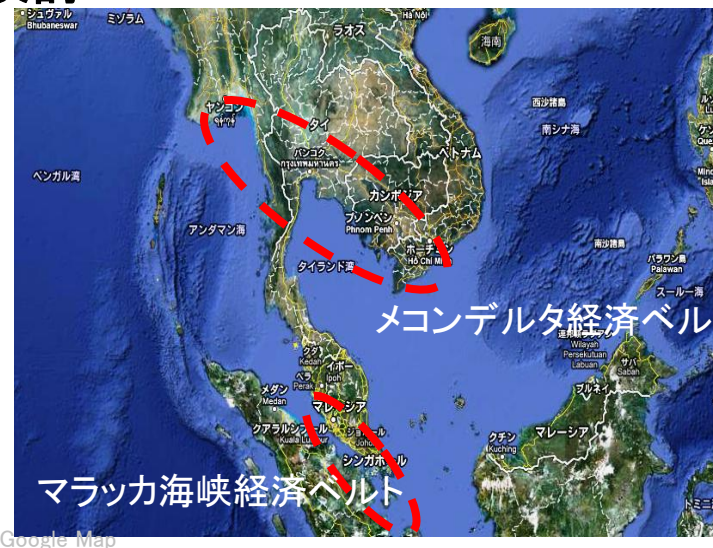
# ASEAN市場の拡大と需要の高まり



タイの200万台の市場からASEAN全体で2000万台市場へ拡大

# ターゲット市場と目標

- ❖ メコンデルタ経済ベルト・マラッカ経済ベルトを中心にした市場への展開を準備
- ❖ M&A及び子会社新設による展開を検討

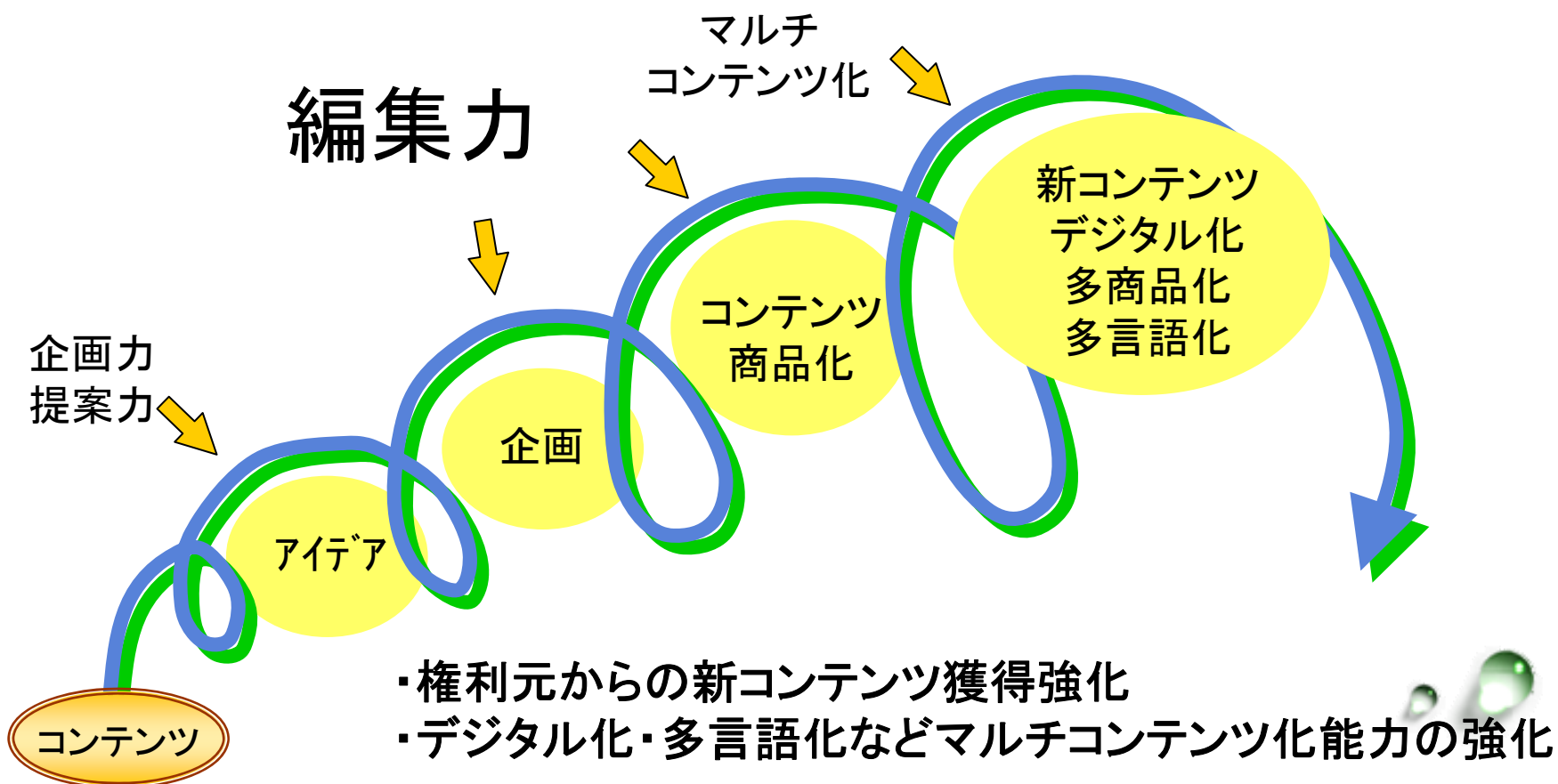


## <今後の目標>

- ◆2012年以内に2カ国以上に進出
- ◆今後5年では現在のタイ市場と比べて海外でのポートフォリオを8倍以上に
- ◆タイ市場でも5年以内でポートフォリオを現在の2倍に

# 日本市場での事業方針

❖ コンテンツ事業は「編集力」を軸として収益性を高め  
新たなコンテンツ取得、マルチ化で持続的成長へ





The background of the slide features a soft-focus image of vibrant green leaves and several clear water droplets, creating a fresh and natural aesthetic.

# Thank you!

弊社IRに関するお問い合わせ先  
株式会社ウェッジホールディングス 経営管理本部  
TEL: 03-6225-2161 / FAX: 03-3548-0566  
wedge-ir@wedge-hd.com  
<http://www.wedge-hd.com>



※本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保証するものではありません。